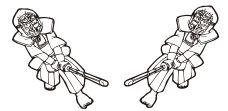




題字:細川武敏(41期)筆
OB会報誌第25号
平成29年12月1日発行
制作:会報編集委員
(株)上田ワードプロセス企画
TEL. 0268-23-1122 (代)



諸行無常



会長 春原和民(六十四期)
去る九月下旬に、

昭和四十二年から
四十九年まで、母校
剣道班の正顧問を務
めて頂いた野中武先生が逝去されまし
た。先生は、剣道に関するご経験はな
いものの熱心に班をまとめられ、羽田
敏幸先生(現名誉会長、六十一期)に
引き継ぐまでの七年間に亘ってご尽力
されました。先生のご冥福をお祈り申
し上げます。

また、数日後には、上小剣道連盟の
藤極会長の奥様も急逝されたと聞き、
人の命の儚さを『諸行無常』の教えと
ともに感じずにはおれませんでした。

【役員改選】

合掌。

六月二十四日開催のOB会の総会に
おいて、任期満了に伴う役員の改選が
行われ、幹事長には山崎完爾君(七十七
期)に代わって唐沢信広君(八十六期)
が、会計は金森健志君から吉田昭雄君
(八十六期)に交代となりました。

よって監査は、竹内茂直君(七十二
期)は留任し、新たに山崎完爾君に加
わっていただきました。

これから二年間のOB会運営を新体
制で推進することになりましたので、
会員の皆様の叱咤激励をお願い致し
ます。

【今後の運営方針】

会則にも明記してありますように、
我々OB会の目的は会員相互の親睦
と、剣道班の支援であります。

前者に関しては、個人的にはいろい
ろな形で行われていると思えますが、
公式には正月二日の稽古会・新年会と、
六月下旬の総会が中心になると思いま
す。一人でも多くの会員の皆さんが集
い、昔話に花を咲かせるとともに、現
役生に対しても、しっかり見守ってい
る姿勢を示していただきたいと願っ
ています。

後者の剣道班の支援に関しては、稽
古と経済的面の二つがあるのですが、
剣道を継続しているOB諸氏には是非、
道場に足を運んでいただいて後輩
の指導をお願いいたします。また、他校と
の交流稽古・試合も大切な強化策と思
われますので、経済的負担を少しでも
軽減するためにも会員各位の会費納入
をお願いいたします。

こうして、車の両輪のようにOB会
と現役生が共に発展、活躍することが、
脈々と伝統を築いて来られた先輩OB
方々への『報恩』と信じております。

活動報告



前幹事長 山崎完爾(七十七期)
平成二十九年
度OB会活動につ
いて、事務局より
ご報告いたします。
年度当初、四月

の声を聞くと「OB会総会の準備を」、
というところで役員会を開催することか
ら本格的な動きが始まります。第一回
の役員会において、二十八年度の活動
の総括と二十九年度の活動方針を決定
いたしました。二十八年度に大きく変
更した総会通知の廃止、会費納入者に
対して「剣風」を送付すること、に
ついては引き続き実施する方針を確
認し、二十九年度もそれに沿った運
営をすることといたしました。また、
二十九年度は役員改選の年となるた
め、役員構成について検討をし、春
原会長が引き続き二期目の会長を務
めることになり、事務局については幹事
長、会計を現在選任されている役員の中
で交代することとし、総会に諮ること
といたしました。

定例総会の開催にあたっては、
二十八年度に引き続きOB会ホーム
ページ、メールアドレス登録者へのメ
ルマガによる通知をし開催をPRいた
しましたが、個々の郵送は行いません
でした。

のは、現役
生全員によ
る剣道形の
演武です。

顧問の若林
康彦先生の
御指導によ
り、現役生
がそろった
動きを見



現役生全員による剣道形演武

せ、立派な演武を披露してくれまし
た。現役生にとっては、じっくりと剣
道形を修練する良い機会になったよう
です。その後、例年どおり宮下杯争奪
戦・稽古会が行われました。宮下杯争
奪戦ではOB会員に審判団として協力
いただき、審判長は宮坂信之氏(六十四
期)にお願いしました。昨年は十分な
審判員の人数を確保することができず
苦慮しましたが、本年度は事前に審判
のできる方をお願いをさせて頂いたと
ころ、快くOBの皆様に御協力を頂く
ことができた。今年度も、班員の減
少から一試合場での実施となりました
が、全員で男女全試合を観戦し、争奪
戦後の講評ではOB諸氏より現役生に
対するアドバイスを頂いております。
引き続き行われた稽古会では、OB会
員と現役生との熱の入った稽古が行わ
れました。大勢の高段者との稽古は、
現役生にとって貴重な経験となった事
と思えます。また現役生だけではなく
OB同士の稽古も盛んに行われ、高み
を目指すOB諸氏にとっても有意義な
稽古となったようです。

その後、会場を上田温泉祥園に移し
てOB会総会及び懇親会が行われまし
た。事前に心配していたのは、どのく
らいの方に出席していただけるのか、
ということでしたが、やはり出席者が
少なく、十六名の方の御参加にとどま
りました。来年度以降いかに出席者数
を増やしていくか、が大きな課題とな
りました。

総会では、春原和民会長(六十四期)
の御挨拶に続き、二十八年度事業報告・
決算報告を行い御承認をいただきました。
次に、役員改選について提案をし、
幹事長は唐沢信広君(八十六期)、会
計は吉田昭雄君(八十六期)にお願い
し御承認をいただきました。そして、
新体制で臨む二十九年度の事業計画、
予算についても御承認をいただき、今
年度の事業がスタートしております。

この総会の席において、羽田名誉会長
から、班旗の揮毫をしていただいた故
半田孝悳氏の原本が手元にあるが、こ
のままにしておくのは宝の持ち腐れに
なってしまうので、額装をして道場或
いは教室等に飾ってはどうか、という
提案があり、事務局で対応することと
させて頂きました。

総会に係る改革が二年目となり、会
費納入者の減少、総会出席者の減少等
の課題もみえてきた状況ですが、今後
もOB各位のお力添えをいただきなが
ら、役員それぞれが力を発揮していき
ますので、皆様も気軽に総会等への出
席をお願いいたします。

OB会のもう一つの事業の柱である
「剣風」の発行につきましては、例年
九月頃から担当役員を中心に、企画、
原稿依頼・準備、編集を行ってきてお
ります。二十七年頃から過去のOB会
費納入者、高校卒業後四年間まで等、

一定の条件を付した上でお送りさせていただきます。OB 会員の皆様への情報発信の一つとして重要なものですが、経費面を考慮した上での対応となっております。引き続き会員の皆様のご理解と、会費納入へのご協力をお願いいたします。

次に、上田高校運動部 OB 会連合会事業についてご報告いたします。

平成二十九年一月二十八日の幹事会に引き続き二月二十五日に祥園にて行われた総会には、当会からも五人が出席しました。総会においては事業・決算報告、事業予定・予算案等が審議承認されました。OB 会連合会の事業として、春と秋の二回ゴルフコンペを開催しております。当会からも有志の方々にご参加を頂いておりますが、参加者が三人以上になりますと団体戦にもエントリーが出来るようになります。ホームページ、メルマガ等で開催のご連絡をさせて頂きますので大勢の皆様のご参加をお願いいたします。なお OB 会連合会の幹事は毎年持ち回りとなっており、二十九年度については弓道班が当番幹事になります。

最後に、私事、幹事長として二期四年間たいへんお世話になりました。至らない点も数多くあったかと思いますが、役員そして会員の皆様の御協力をいただき、何とかやってこられたか



宮下杯開会式

な、と思っております。二十九年度からは監査ということで引き続きお世話になりますが、よろしく願い申し上げます。これからも OB 会の活動にご理解と、引き続きのご協力を賜りますようお願い申し上げます、活動報告とさせていただきます。

OB 会役員改選について



幹事長(新任) 86期 唐澤 信広
この度、OB 会の幹事長を仰せつかった 86 期の唐澤 信広と申します。

諸先輩方がいらっしゃる中ではございますが、春原会長のもと OB 会と顧問の先生方、現役生の皆さんとの橋渡し役として精一杯務めさせて頂いた所存ですので、ご指導ご鞭撻をよろしく願います。現在私は母校近くの職場で毎日働いており、部活の時間帯や休日等に所用で学校周辺を通りかかると、剣道班をはじめとした生徒の皆さんが元気に活動されている様子を感じ、学生当時は思い出しても懐かしく思います。

現在は顧問の若林先生の指導のもと、二年生を中心に日々鍛錬に動んでいることと思えます。秋の新人戦をはじめとした公式戦や交流会等の経験を経て、剣士としてだけでなく人として成長をしていかれると思うと、自分も当時は実は貴重な経験をさせて頂いており、様々な方々に支えていただき育てていただいたんだと、立場が変わることにより実感しました。

さて今年の総会で決まりました、大先輩である故半田孝淳天台宗座主の書「剣友」の手ぬぐいを制作し、現役生の皆さんに使っていただく事業を現在進めています。諸先輩方にもぜひとも使っていただきたいと考えています。この書は OB 会旗にも使用しています



会計(新任) 86期 吉田 昭雄
上田高校剣道班 OB 会に携わるようになって四年ほど経過しましたが、この度、総会で皆様の選任をいただきまして会計を務める事となりました八十六期の吉田昭雄と申します。会員の皆様方から納入いただきます貴重な会費を預らせていただきます。OB 会の運営、また現役生の活動の一助となるよう、間違いないよう管理させて頂きたいと思っております。

さて、会計を預かるにあたって会員の皆様にお願ひ申し上げます。ご承知のとおり、会費は年三千元です。それ以上の納付につきましてはご寄附として頂いております。会計年度は四月から翌年三月までとなっておりますので、会費の納入をお願いします。例年、総会、宮下杯の運営、現役生への援助や「剣風」の発行その他諸々な事業を行っております。これらの活動を通じて、OB の皆様の親睦が一層深まり、

現役生が剣道に打ち込めるよう、重ねて皆様の会費の納入をお願いします。今回幹事長となりました唐澤君は同期であり、高校時代からの気心の知れた仲であります。連携を密に図って、様々な事業を行っていききたいと思います。また、春原会長以下、OB 会の役員の皆様と協力し、益々上田高校剣道班 OB 会を盛り上げていきたいと思っておりますので、よろしく願ひいたします。

平成 29・30 年度新・役員
顧問 54 期 桑澤俊猛
名誉会長 61 期 羽田敏幸
会長 64 期 春原和民
副会長 65 期 若林健(総務担当)
71 期 柳沢収(会員担当)
76 期 佐藤博(広報担当)
82 期 近藤敏期(指導担当)
86 期 唐澤信広
75 期 渡邊隆信
80 期 正村聖美
86 期 柳澤哲
87 期 金森健志
93 期 坂下繁行
105 期 矢ヶ崎心哉
106 期 森角遥
86 期 吉田昭雄
72 期 竹内茂直
77 期 山崎完爾
参与(正顧問) 若林康彦
参与(副顧問) 小林まゆ子
高柳剛士

顧問	54 期	桑澤俊猛
名誉会長	61 期	羽田敏幸
会長	64 期	春原和民
副会長	65 期	若林健(総務担当)
	71 期	柳沢収(会員担当)
	76 期	佐藤博(広報担当)
	82 期	近藤敏期(指導担当)
幹事長	86 期	唐澤信広
副幹事長	75 期	渡邊隆信
	80 期	正村聖美
	86 期	柳澤哲
	87 期	金森健志
	93 期	坂下繁行
	105 期	矢ヶ崎心哉
	106 期	森角遥
会計	86 期	吉田昭雄
監査	72 期	竹内茂直
	77 期	山崎完爾
参与(正顧問)		若林康彦
参与(副顧問)		小林まゆ子
		高柳剛士

随筆・和親記より
真田の表木神社と裏木神社
信州大学 大学院総合工学系研究科
教授太田和親(百一期太田朝裕・父)
2009 年 8 月 27 日(9 月 3 日随筆)
私は二三年前より運動不足解消のため地域の神社仏閣を巡りながら散歩することになっている。最初はただ散歩が目的であったのだが、それでは飽きてしまうのでついでに神社仏閣を回ることにした。約一年半かかったが、昨年八月までに上田市内の約二百の神社仏閣を全て回った。そこで、今まで知らなかった地域の歴史が、その神社仏閣の由緒や石碑を読むことが目的となっていました。昨年までに上田市内の全ての神社仏閣を訪ね尽くし行くところがなくなりましたが、今年三月、上田市が周辺の市町村と合併し、新生上田市となった。そこで、新生上田市内でまだ行っていない旧真田町、旧丸子町、旧武石村の神社仏閣も行ってみようと考えてみるようになった。ついでに、ゆくは旧小県郡に属していた旧東部町や、小県郡のまま残っている青木村、長和町(旧長門町+旧和田村)も踏破しようと思いついた。つまりいわゆる上小地区(上田市と小県郡)といわれている範囲を全て回ろうと思っている。仕事が休みの土日に回るからこれから数年はかかるかもしれないが大変楽しみである。

今年の八月のお盆休みに旧真田町の神社仏閣を回っていて、黎明期の信州の歴史に極めて示唆に富む二つの神社に心を奪われてしまった。それは表木神社と裏木神社である。これらの神社境内にある石碑の碑文からすると、これらの神社は何と、弥生時代から存在する極めて古い神社だそうだ。その古



表木神社 (上田市真田町本原)

さは、境内から出土した祭用の弥生式土器や、それぞれ昭和八年や昭和三十六年まで境内に立っていた櫛(けやき)の巨木の樹齢(200年から、推し量られる。日本人は太古の昔から神社の木は、枯死しないかぎり、切らない。それで樹齢から創建の時期が推し量れるのである。きつと、この二つの神社は今から1800年から1900年前に立てられたのだろう。上田市常田の科野(しなの) 大宮神社や長野市豊野の伊豆毛(いずも) 神社とほとんど同じ時期と考えられる。科野大宮神社境内には約300年前に枯れた御神木の巨大な櫛(け)の切り株が今も保全されており、その櫛が切られたときの樹齢は1500年であった。つまり今もその櫛が生きていたら現在は樹齢1800年となるのだ。伊豆毛神社の境内には今から約100年前の明治35年(1902)に立てられた「郷社千八百

年祭票碇(ひょうげち)」がある。これからすると伊豆毛神社は今から約1900年前の西暦(205年に建立されたことになる。極めて興味深いこと)にこ
れらの神社、伊豆毛神社、科野大宮神社、表木神社、裏木神社は全て、出雲から科野(信濃)に移住してきて信濃の国を作った出雲勢力の神社なのである。
ここ真田町では、御祭神は、表木神社が建御名方命(たけみなかたのみこと)、裏木神社が八坂刀売命(やさかのみこと)である。建御名方命は出雲の大国主命の息子で、天照系(大和朝廷系)に破れて天照系の支配から逃れ、出雲から能登・越後を経て信濃に入り、長野市豊野の伊豆毛神社の辺りを通り、上田市の神畑(かばたけ) 神社や生島足島(いくしま) 神社の辺りに一時的に滞在し、最終的には、諏訪大社の諏訪に落ち着いた。この建御名方命は、信濃の国の開闢(かいはく)の祖と言われている。八坂刀売命は建御名方命の妻である。つまり、信濃の国を最初に作ったのは建御名方命と八坂刀売命ということになり、古事記にでてくる日本(やまと)の国を最初に作った伊弉諾命(いざなぎのみこと)と伊弉冉命(いざなみのみこと)に相当する。信濃の国は出雲の国が滅びた後にできた出雲の亡命政権が作った国ということになる。その初代の王と后がこの建御名方命と八坂刀売命ということになる。ここで、大変面白い伝説がある。諏訪大社では、上社で建御名方命が祀られ、下社で八坂刀売命が祀られている。厳冬期に、上社の建御名方命が下社の八坂刀売命を訪ねて、結氷した諏訪湖の上を歩いて渡って行った跡が、御神渡(おみわた)り) なのだという。御神渡は、零下十度以下の日が続くと諏訪



裏木神社 (上田市真田町本原)

湖の水が線状にせり上がる現象のことをいう。この言い伝えからもわかるように、建御名方命と八坂刀売命は夫婦なのに別々の神社に祭られている。諏訪大社以外の諏訪系の神社つまり末社では、私の知るかぎり夫婦を一緒に祀っている。私は、諏訪大社だけがこのように上社下社に別れて、夫婦なのに建御名方命と八坂刀売命を別々に祀っているのだと思っていた。しかし、ここ上田市真田区でも、表木神社が建御名方命(たけみなかたのみこと)を、裏木神社で八坂刀売命(やさかのみこと)を、夫婦別々に祀っていることに驚嘆した。これは、諏訪大社の上社下社の原形ではないかと思った。なぜ原形と考えられるかという点、上で既に述べたように出雲勢力の科野(信濃)への入植の歴史は、諏訪よりも上田や真田の方が年代的に古いからである。さらに大変面白いことに、今の上田の市街地の辺りは、今は上田市民にも忘れ去られているが、千年ほど前までは小泉郡須波(すは) 郷と呼ばれて

いた。諏訪より古い「すは」がかつて上田の千曲川河畔の北側に存在していた。従って、科野大宮神社の辺りは、今の諏訪よりも古い「すは」なので「古須波(こすは)」と呼ばれていたのだ。このことは科野大宮神社の碑に書かれている。これらのことから明らかのように旧上田市や旧真田町は、諏訪地方よりも年代的により古い出雲勢力の入植地であったということがわかる。従って、真田の表木神社と裏木神社が、諏訪大社の上社下社の原形だと考える所以である。真田の表木神社と裏木神社は、このように大社としての形式を持つている。従って、王と后が一期期の地にいたときにこの二つの神社は作られたのではないか。出雲系の王族が諏訪地方に入って定着する前の一時期、上田と真田の一带は出雲王権の亡命勢力の一大中心地であったのではな

いかと、私は想像を逞しくして興奮を覚えた。



裏木神社に立つ石碑

※編集者注…原文を改変せずそのまま掲載しました。太田和親著…和親記：<http://www.13.ueda.ne.jp/~ko52517/s05.htm>

【著者特別寄稿による最新原稿】
諏訪大社のご祭神に関しては諸説あ

りますが、御神渡りの伝承から、上社をタケミナカタの命、下社をヤサカトメの命とするのが妥当と思いい、本文ではこの説を取っています。所説による反論が予想されますが、御神渡りの説からということにしています。

また、大変興味深いことに、真田に1000年ほど前に出雲の勢力が入植したときには、そこには縄文人がいたのですが、この縄文人の人たちは、すぐに弥生系の農業を受け入れて同化したのではないようです。それから1000年間は、真田では縄文系の人たちが混住していたようです。

上田市真田町長(おさ)の角間溪谷には、岩屋観音堂といわれる遺跡があります。ここは、信州に最後までいた縄文人の毘邪(ひや)が住んでいたところと、毘邪は坂上田村麻呂に討たれ、真田町傍陽(そえひ)にある金繩山「実相院」に葬られました。1200年前の大同元年のころのことです。丁度空海が唐から帰国した頃です。信州には、そのころまで縄文人がいたのですね。わたしは、毘邪が本州最後の縄文人だと思っています。

弥生系の文化が縄文系文化を席卷していくのに信州では700年かかったということでしょうか。



表木神社に立つ巨木

地元で活躍するOB

(六十一期 羽田敏幸)

「信濃毎日新聞」九月二十七日付けに、剣道班OBの66期飯塚芳幸氏の記事が載っていました。



「真沙果」の実り具合を見る飯塚さん

野中元顧問のご逝去に懐(おも)う



野中 元先生
(昭和42/49年顧問
平成29年九月二十四日
ご逝去、享年九十歳)

工藤 武和 (六十七期)

去る九月二十四日九十歳でご逝去された野中武先生は、昭和四十二年から、前顧問の横谷先生の転任に伴い剣道班の顧問になられたのは、私が二年になった時でした。

荒木先生、横谷先生と剣道班を育てられた戦後3代目の顧問就任ということで、責任と緊張感を私達に語っていただき、かつての自分がお使いになった稽古着姿で道場に現れたことを覚えていきます。

先生は試合についての作戦などは私達の考えを尊重してくれ、試合での喜び、悔しさを共に語り、常に優しく支え、励ましてくれていて、顧問、人生の先輩の立場を踏まえながら、いつも一緒に戦っている同士のようでした。思い出はたくさんありますが、松代

地震の翌年だったと思いますが私達三年生をご自宅に招いていただき、松代の町を案内してくれ八人以上だったと記憶していますが全員泊めていただきました(お焼香の際、その頃中学生だったという娘さんがそのときの様子を懐かしげに話してくれました、娘さんはなんと私と中学、高校の同期の武田君と結婚され、現在塩田の住人となつて

いることを知りました) また、インターハイの東信大会で優勝した日、私達に食事をご馳走してくれましたが、

ブドウ「真沙果」驚く甘さ

上田市保野で「飯塚果樹園」を経営する飯塚芳幸さん(67)

が、10年ほどかけて新品種のブドウを開発した。種がなく皮ごと食べられる。通常のブドウは糖度が18度ほどだが、新品種は20度と甘みが強く、1粒が大きい。「真沙果」と名付け、年内に商標登録と新品種登録を申請する。

新品種は「アウローラ21」と「カッタークルガン」を交配した。「もともとある品種だけでなく、自分で作った品種を育てたい」と、11年前か

上田・飯塚さん 新品種開発

ら交配に取り組み、4年前に初めて実を付けた。飯塚さんは「真沙果、こんなブドウがあるとは」と驚きの思いを込めて名付けた」と話す。

飯塚さんは25歳で家業の農家を継ぎ、栽培にのめり込んだ。「種類によつて粒の大きさや色、香りが違うブドウに魅了された」という。今回の新品種開発後、「真沙果」と「シャインマスカット」を交配させたブドウの栽培も始め、今季初めて収穫。8種類あり、それぞれ甘みや大き

さが異なるという。飯塚さんは「同じブドウでいろんな味を楽しめる」と自信を見せる。

今月20日には上田市役所を訪れ、「真沙果」など6種類を持参し、母袋創一市長や市の職員らが試食。母袋市長は真沙果について「ジュシーで甘い」と高く評価した。

現在、「真沙果」の木は7本。今後は他の農家と栽培契約を結び、生産量を増やすことも考えている。飯塚さんは「流通させるのはまだ先の話だが、農協などの協力を得て、地域のブランドに育てたい」と意気込んでいる。

現在、「真沙果」の木は7本。今後は他の農家と栽培契約を結び、生産量を増やすことも考えている。飯塚さんは「流通させるのはまだ先の話だが、農協などの協力を得て、地域のブランドに育てたい」と意気込んでいる。

※信濃毎日新聞記事より転載

度もいただいた事、OBの皆さんにお伝えしておきます。最後に野中先生のご冥福をお祈りし、筆をおきます。 合掌

現役生への稽古指導

東京医科歯科大学名誉教授 宮坂 信之(六十四期)

本年五月二十四日(水)、母校での指導内容報告

県大会まであと九日しかないために、今日は部員に試合稽古をさせて、春原、宮坂(共に64期)らのOB(76期佐藤、93期坂下を含む)がコメントをするこ

とで指導をした。指導内容…有利な試合運びをするために重要なことを春原先輩から説明。指導結果…自信を持ち、気合を出して

試合に臨むことが大切。まだ気合の出し方が不十分。しかも一拍子で気合や打ちがだせていないところがあるの

正月のOB会幹事より

春原 光希(百十二期)

今年度の上田高校剣道班冬のOB会幹事を務めさせていたいただきます



百十二期の春原光希です。まず、近況報告としては大学院に進学することに決め、現在は大学

卒業に向けて卒業研究を行っています。分野としては目では見えないようなミクロな世界を扱っており、正直自分でも何が何だかわかりませんが、何とか取り組んでいるところです(笑)。さて、大学でも部活動で続けてきた剣道ですが、今年の九月をもって引退となりました。上田高校の頃とはまた違った環境の中、自分の課題と向き合いながら稽古してきましたが、今年はずんずん結果を出せず、悩み抜いた一年だったように感じています。稽古をどう試合に活かしていくか、改めてその難しさを実感しました。とりあえず今は、一月二日の稽古会に向け体力を取り戻さねば、と感じております。(笑) 最後に、一月二日の稽古会では、多くの先輩方・同期・後輩と剣道ができることを楽しみにしています。



名古屋大学剣道部(前から二列目、左から二人目筆者)

剣道今昔

平成 29 年度戦績

■ 平成 29 年度長野県高等学校総合体育大会結果(6 月 2・3・4 日) 於・南長野運動公園

団体戦

男子リーグ戦 2 位 決勝トーナメント 屋代高校に 2 対 1 で負け

女子リーグ戦 2 位 決勝トーナメント 上伊那農業高校に 4 対 1 で負け

男子個人戦 山岸龍矢が 5 位で北信越大会出場です。

■ 第 161 回東信大会結果(5 月 13・14 日) 於・佐久穂町しらかば社会体育館

男子個人戦 山岸龍矢(3 位)

女子個人戦 倉島花音(7 位)

男子団体(3 位)

女子団体(5 位)

■ 上小高校リーグ 結果(於・上田市自然運動公園総合体育館 7 月 23 日)

男子の部(団体戦のみ)

第 1 位: 上田高等学校 A

高校女子の部(個人戦のみ)

第 1 位: 倉島、第 3 位: 依田

■ 真田幸村杯剣道大会 結果(於・上田市自然運動公園総合体育館 9 月 10 日)

男子の部(団体戦のみ)

第 1 位: 上田高等学校(選手: 山岸龍矢, 竹内尚大, 竹森大貴, 龍野謙信, 北澤泉拓, 花村優斗, 増田健人)

第 2 位 野沢北高等学校 A

第 3 位 上田千曲高等学校 B

々 上田西高等学校

高校女子の部(団体戦のみ)

第 1 位 混成 B(上田・東御清翔) 倉島花音(上田), 依田 恵(上田), 竹内尋香(東御清翔)

第 2 位 混成 D(上田染谷丘・上田東)

第 3 位 上田西高等学校



平成二十九年

■ 長野県高等学校新人体育大会剣道競技結果(11 月 18・19 日) 於・下諏訪体育館

男子団体 1 回戦 対須坂高 4 : 0

2 回戦 対蟻ヶ崎高 4 : 0

準々決勝 対上伊那農業高 2 : 3

ベスト 8

男子個人

山岸龍矢 準々決勝(久保田・長野日大) 敗退
ベスト 8

女子個人 倉島花音 1 回戦(浅井・松商) 敗退

近況報告



上田高校剣道班顧問
若林 康彦

剣道班、OB 会の皆様におかれましては、常日頃より上田高校剣道班に、物心共々のご協力を頂きまして、ありがとうございます。班員共に心より感謝申し上げます。

さて、剣道班の近況ですが、総体予選、東信大会におきましては、男子団体戦三位、男子個人戦、山岸龍矢君が三位、女子個人戦、倉島花音さんが五位に入賞。同じく県大会では、男子団体戦ベスト八、男子個人戦、山岸君が五位(北信越大会出場)、女子は倉島さんがベスト十六という戦績でした。

また、東信新人大会では、男子団体戦三位、男子個人戦、山岸君が四位、女子個人戦、倉島さんが五位、という戦績でした。まだまだ力を発揮できていないのではと、感じられずなりません。十一月に県新人大会、一月に選抜大会県予選会と続きますが、それぞれの課題を一つずつ克服させながら班員と共に頑張りたいと思っております。今後共、ご指導の程宜しくお願い致します。



平成 29 年 9 月 10 日真田幸村杯剣道大会

剣道今昔

「昔」

明治三十七年

五月三十日小野田先生の門弟たりし、風間平治氏（新潟縣人）上京の途中先生を尋ねて上田に立ち寄る而して我部は之れを幸とし聘して部員をして稽古せしむ流石は昔先生の薫陶をえたる人として技量さひ姿勢さひ秀でたる勇士たりき

●撃劔部記事

撃劔部		弓術部	
金	銀	金	銀
五	五	全	全
四	四	全	全
三	三	全	全
二	二	全	全
一	一	全	全
丙	甲	全	全
伊藤 隆	佐藤 孝一	小山 貞一	稲玉 信吾
富山 賢造	秋山 貞三	小山 貞知	高橋 真
富山 賢造	山崎 重孝	高橋 直彦	倉澤 直彦
松田 賢造	山浦徳二郎	松入松三郎	柳澤朝一郎
松田 賢造	小岩井文八郎		
六角直太郎			

○春季及秋季競技會 五月二十八日及び十月二十九日を以て競技會は開かれぬ部員は東西に分れあひづの鐘聲と共に競技は開始せられ各あらん限りの力を盡し戦ふ機實に勇壯に活潑に優美に愉快に見えたりき終に助手諸士の試合はなほ此處に於てか參觀人は各その勝負や如何にこ片唾を呑んで控へたりやがて試合は始まりぬ雷と轟く掛壁に憂々相ひ撃つ竹刀廬を掃き元を批ち奇正變化秘を盡して戦ふ機たさへん方なく生死存亡呼吸に決するはづみか勇士小山貞一君は未だ充分技量を示さざる中に勝負は決し左記の結果を示しぬ

春季 欠 (小山貞知 助手) ○× (稲玉信吾 (助手) 小山貞一)

秋季 ○ (小山貞知 稲玉信吾) ○ (小山貞一)

かくして三本勝負は終りて次に一本勝負三人抜及び五人抜を行ひ豪も未練を殘すなく禮儀を重んじ愉快に終りぬ

三人抜 春季 今川忠勝竹鼻清石井林次郎中村恒

剣道班・アーカイブス

当剣道班OB会では、明治～大正～昭和に至る貴重な写真を関係者のご協力を得て収集し、後世に残す為データ化した。それらの中から貴重な写真を紹介する。



～上小剣道連盟六十周年記念誌より～
第一章三節「学校剣道と指導者養成」
明治期の剣道復興に大きな役割を果たしたのが、中略、教育の一環として剣道をおしえるべきであるという学校は全国に多くみられた。
～中略～、西の私学・武専、に対し、東の官学・高師、といわれた教員養成機関である東京高等師範学校（戦後、東京教育大学（現筑波大学）に武道教師養成の武道学科が置かれたのは大正二年（一九一三）である。時の校長・嘉納治五郎（講道館柔道の創始者）に請われて剣道科講師に就任し、やがて剣道科主任教授となったのが高野佐三郎である。学校で剣道家が教授に任ぜられたのは高野佐三郎が最初である。彼は、川崎善三郎・高橋起太郎とともに「警視庁の三郎三傑」といわれ、警視庁を辞してからは浦和に「明信館」道場を開いた。その後、東京の九段下に「東京明信館」、さらに関東一円に四十を超える超える支部を設立

し多くの優れた剣士が輩出した。大正四年に、神田今川小路に新たに「修道学院」を建てた（後に神田一ツ橋に移転）。これが、大正・戦前の昭和にわたり、中山博道の「有信館」と共に東京の剣勢を二分した道場である。～後略～



伊藤長三先生（旧制・上田中学時代の剣道教師）に贈られた高野佐三郎師の写真 ※伊藤家 蔵

宮下杯優勝者の声

【男子優勝】二年百十七期 山岸龍夫

今年は一連覇がかかった宮下杯でした。夏の大会での反省を活かして、本番は落ち着いて試合することができたと思います。優勝できたのはとても良かったです。納得できる一本をだしきれなかったという反省も残りましました。その点は、日々の稽古で一本一本を大切に打ち込んでいくことで改善していきたいと思っています。

今回の夏の大会では、個人で北信越大会まで進むことができました。やはり、北信越の壁は高いと実際に感じました。私はまだ二年生なので、今回の経験を活かしてもう一度、また、さらさら上の大会で自分の力を試せるよう励んで生きたいと思っています。

また、先輩方から引継ぎ私は新班長となりました。自ら動いてくれる仲間にとっても助けられていて、同時に仲間との大切さを改めて実感しています。



幸村杯 女子

そんな彼らのためにも班長として、もっと周りや仲間を見て、アドバイスや応援をして、自ら率先してチームを盛り上げていけるように努めていきたいと思っています。また、団体戦でも私がチームしつかりまとめ、今まで以上に上位の成績、上の大会へ勝ち進んでいけるように精進していきたいと思っています。



幸村杯 女子

【女子優勝】二年百十七期 倉島花音

「反省を生かして」

夏の本大会では個人戦、団体戦ともに県大会に出場することができましたが、自分の剣道ができず、一本取れるような場面でも一本決めることができない、とても悔しい結果でした。

その反省を生かすため、試合の動画を見返し、何が自分には足りなかったのか、どう攻めれば良かったのかなども考え、体幹トレーニングやランニング、素振りを班活動以外の時間にも自主的に行いました。

そのおかげもあり、宮下杯では夏の本大会ではできなかった自分の攻めを、前に出る剣道で優勝することができました。しかし、自分から攻めたのに、一歩下がってしまったり、技が単発になり、流れが途中で切れてしまったりする場面があったので新たな課題として日々の練習で改善していきたいです。

新人戦では今回の宮下杯の結果を励みとして、団体戦には出場できませんが、個人戦では下がらずに前へ自分の剣道をやり、良い結果を残し、次の大会に進めるよう頑張りたいです。高校剣道は中学校の頃と違い「突き技」があったり、「間合い切り」があったりと環境が著しく変化しますが、柔軟に対応していき、怪我に気をつけ、日々鍛錬していきたいです。



幸村杯優勝、準優勝の各位

現役生を代表して

【班長】三年百十六期 城田裕磨

班活を引退した今、三年間という月日はやさを改めて感じています。

僕は中学の時に友人に誘われたのがきっかけで剣道を始めました。高校に入った当初は顧問の先生に毎日教えていただけること、遠征の多さ、先輩がとても強いことに衝撃を受け、同時にこれから本当にやっていけるか不安がありました。

した。

最後は目標の一手手前で敗れましたが、この三年間僕が剣道できたのは、保護者の方々、顧問の先生、先輩方、百十六期の仲間、頼りない僕についてきてくれた後輩、たくさんの方の支えがあったからです。剣道を通して得たたくさんの方の経験をこれからの人生に活かしていきたいと思っています。三年間本当にありがとうございました。

【女子班長】三年百十六期古居佑紀乃

百十六期生は女子が二人しかいなかったため、先輩方が引退されてから一年生が入班して来るまで、私たちは団体を組んでいませんでした。

遠征や練成会では他の学校とチームを組めましたが、新人戦は団体戦に出場することはできませんでした。

しかし、四月に一年生が二人入班してくれたおかげで、最後は団体戦に「上田高校」として出場することができました。結果は県ベスト十六位でしたが、私はとても満足しています。

三年間、辛いことも苦しいこともありましたが、先生方や仲間たちに支えられて、とても充実した時間を過ごすことができました。

これからも、上田高校剣道班で学び、経験したことを忘れずに過ごしていきたいです。



宮下杯での城田裕磨君



9月10日第十一回真田幸村杯剣道大会にて、(右)山岸龍矢君



会員の近況報告

第四十三回東北女子学生剣道優勝大会
 第三十六回全日本女子学生剣道優勝大会
 会予選(主催・主管・東北学生剣道連盟、場所・宮城県塩釜ガス体育館、平成二十九年九月十日)
 山形大学準優勝(百十三期) 正村 薫
 次鋒1-1で引き分け

第三十六回全日本女子学生剣道優勝大会
 (主催・全日本学生剣道連盟・毎日新聞社、主管・東海学生剣道連盟、場所・愛知県春日井市総合体育館、平成二十九年十一月十二日)
 山形大学一回戦敗退(同) 正村 先鋒
 2-1で勝ち

平成二十八年十一月以降の 会費納入者芳名録

- | | |
|------|----------|
| 羽田敏幸 | 高木重雄 |
| 仁木邦彦 | 金澤信男 |
| 加藤篤史 | 山口元彦 |
| 竹内茂直 | 佐藤陽文 |
| 近藤敏朗 | 工藤泉 |
| 清水通男 | 池田俊朗 |
| 百瀬弘一 | 井出賢次 |
| 大塚博文 | コバヤシシントロ |
| 田村春樹 | ウ |
| 石井信幸 | 田中美枝子 |
| 山浦一雄 | 上羽昌美 |
| 小林由佳 | 大島英穂 |
| 小林真大 | 小川亮夫 |

- | | |
|----------|-------|
| 池田直樹 | 柳澤哲 |
| 関戸啓司 | 金森健志 |
| 関省吾 | 坂下繁行 |
| 田村敦 | 矢ヶ崎心哉 |
| 宮沢伸彦 | 森角遙 |
| 池田浩明 | 吉田昭雄 |
| 香山博 | |
| 正村聖美 | |
| 山崎完爾 | |
| 工藤武和 | |
| 輿水理美 | |
| 滝沢冴毅 | |
| 宮坂信之 | |
| 石井秀樹 | |
| 山田恒昭 | |
| 佐藤博 | |
| 羽田敏幸 | |
| 大塚博文 | |
| ハタダ ミサコ | |
| 近藤賢一 | |
| 下形将央 | |
| 佐藤一 | |
| 百瀬弘一 | |
| 森山隆久 | |
| マスタ ヤスシ | |
| ヤナセミキ | |
| 若林 健 | |
| スノハラ コウキ | |
| 春原和民 | |
| 仁木邦彦 | |
| 竹内茂直 | |
| 柳沢 収 | |
| 唐澤 信広 | |
| 渡邊 隆信 | |

連絡事項

一月二日OB会のお知らせ
 日時平成30年一月二日
 ●午後二時〜若手OB対現役生試合
 終了後合同稽古会
 会場は上田高校体育館
 ●午後六時〜懇親会 上田温泉(祥園
 (五時半より受付)会費3000円
 ※幹事(百十二期) 春原 光希
 090・4596・9247

OB会ホームページ <http://ueken-ob.boy.jp/> 会員制掲示板 ID : ueda パスワード : 1111
 メールマガジンを発行しました。当会からのご連絡を流しますので登録をお願いします。登録はwebから

●来年度会費納入のお願い●
 会費(三千元) 納入は六月の
 総会後一ヶ月以内、七月末ま
 でに左記の方法でお願い申し
 上げます。※ご寄付は随時受
 付けております
 (1) 郵便振替用紙での送金
 郵便振替 口座記号番号
 00510・6・5363
 加入者名: 上田高校剣道班OB会
 (2) 銀行口座へのお振込み
 八十二銀行 上田支店
 口座番号: 1014425
 名義: 上田高校剣道班OB会
 ※卒業期とお名前の記入をお忘れなく

来年度のOB会総会は
 6月23日(土) 予定

○住所変更の方は幹事長まで
 八十六期 唐澤 信広
 〒389-0512
 東御市滋野乙三〇〇六
 事務局 ueken.ob1955@gmail.com